

# 家事代行で時間を買う

## 掃除や洗濯、2時間700円台

家事代行サービスで頼める主な家事

<p><b>掃除</b></p> <p>掃除機がけ、拭き掃除、浴室・トイレなど。家庭にある道具や洗剤を使うのが基本</p> 	<p><b>洗濯</b></p> <p>家庭の洗濯機を利用。洗濯物を干す、取り入れてたたむ、アイロンがけも</p> 
<p><b>料理</b></p> <p>家庭にある調理器具や食器を使う。下ごしらえから調理、盛り付けまで</p> 	<p><b>その他</b></p> <p>ゴミ出し、シーツ交換、買い物など</p> 

### 家事代行のサービス例

サービス名(運営会社)	1回あたり料金例	別料金のサービス例など
メリーメイド「家事おてつだいサービス」(ダスキン)	7700円※ (2時間、2週間に1回~)	47都道府県に店舗。半年間不定期で使える在宅勤務支援のプラン
おそうじ本舗「家事代行サービス」(HITOWAライフパートナー)	7590円 (2時間、週1回)	追加料金で整理収納方法の提案など
ベアーズ「テラックスプラン」(ベアーズ)	1万890円 (3時間、月2回~)	料理の作り置きや子どもの世話の専用プランも用意
お掃除代行「スタンダード」(ミツシエル・ホームサービス)	8910円 (2.5時間、週1回)	長期不在時の留守宅管理やペットの世話など

(注) 料金は定期利用契約時でスタッフ1人が対応する場合の税込み価格。時間や頻度などで変わる。原則としてダスキンを除く3社は別途交通費がかかる。※は東京都、神奈川県内のみ9900円

家事代行サービスの利用が広がっている。自宅に専門のスタッフが訪れ、掃除や洗濯、料理などをしてくれる。特に共働きや子どもが小さい家庭などでは家事の時間を減らせる効果は大きい。内容や料金を踏まえ、手に活用したい。

家に着くと預かった鍵で中に入り、利用者との連絡事項を記載したノートを確認。食器の付け置きなどキッチン掃除を始める。浴室や洗面所などを掃除した後、リビングに掃除をかけて、最後は床の雑巾掛けや整理整頓……。これはベアーズ(東京・中央)の家事代行サービスを3時間使ったときの一例だ。

家事代行は家庭で日常的に行っている家事全般を請け負う。主な内容は大きく掃除、洗濯、料理の3つ。さらに買い物やゴミ出し、郵便物の受け取りなどもできる。利用者から頼まれる頻り、不在時に作業するサービスもある。

基本的には利用者の家にある道具を使い、普段しているような家事をする。対応内容は幅広い。掃除なら掃除機をかけるほか、拭き掃除や水回りの掃除などが頼まれる。

洗濯は利用者があらかじめ洗濯機を回しておき、脱水後の衣服を干したり、乾いた後に取り込んでたたんだり、都合に合わせて希望の作業をしていく。料理は家庭にある調理器具や食器を使って調理する。

依頼する作業の内容は事前に相談する。多くの業者では利用者の自宅を訪問して、担当者が要望を聞く。そのうえで必要となる作業時間などを見積もる。家庭により依頼したい家事は異なるうえ、家の広さややり方で必要な時間が変わってくるためだ。

事前の訪問では使う洗剤や作業手順なども確認する。派遣されるスタッフが掃除機のかげ方や水回りの掃除方法などの研修や訓練を受けている場合が多い。だが、あらかじめ要望を伝えれば「利用者の家庭のやり方の通り」(タスキ)業者もある。

業者が利用するプランなどにもよるが、頼める作業は多岐にわたる。買い物や庭木への水やり、靴磨き、パティオの飾り付けなどもある。料理についても、家にある材料を使うほか、メニューを指定して、必要に応じて調味料や材料の買い物も頼める場合もある。

そのため「事前相談では噂し全般的な困りごとをありのまま伝えてほしい」とベアーズの高橋ゆき副社長は話す。

料金は週1回など定期利用と、1回ごとから選ぶのが一般的。定期利用は1回2~3時間で8000~1万円程度が中心だ。1時間当たり3000~4000円ほどで、1回ごとの依頼は時間当たりの単価は高めになる。共働き家庭などが「週1回2時間のコースを定期利用するケースが多い」(HITOWAライフパートナー)という。追加料金を払うと、特別な洗剤や道具を持ち込んで掃除してくれる場合もある。

業者を選ぶ際にはサービスの内容や料金、交通費の有無などが手掛かりになる。業者によって対応できるエリアが限られる場合があるほか、料理は掃除と別のプランになったり、不在時に調理はできないといった違いがある。

作業中に物が壊れるなどトラブルが起きたときの補償の範囲や相談窓口も確認しておきたい。多くの業者では初回の料金を割り引くサービスがある。定期利用の前に一度頼んでみるのも一案だろう。

家事代行の定期利用は支払額が月3万~4万円となることもあり、家計の負担は小さくない。だが、「共働きを続けるための必要経費と考えられる」(ニッセイ基礎研究所の久我尚子上席研究員)と専門家は口をそろえる。昔懐かしい「家事の負担が一因となり、正社員を辞めるなど、働き方を変えよう」と考える女性が多い「フライングシヤルプランナー(FPP)の塚越菜々子氏」ことがある。

ニッセイ基礎研究所の久我氏の試算では大卒後、女性が出産などがなく同一企業で60歳まで働いた場合の退職金を含む生涯賃金は、平均約2億6000万円。出離後に退職して数年後にフルタイムの非正規雇用者として再就職した場合、約1億円と、約1億6000万円の差がある。「特に子どもに手がかかる時期などは、時間を買うことで離職を避けることを検討したい」とFPPの塚越氏は話す。

FPPの内藤真弓氏は利用する前に「家族で家事分担を話し合い、事業者任せにしたい家事を整理しておくのがよい」と話す。共働きは家庭に限らず、たまには負担に感じる家事を任せ、家族で過ごす時間を増やすのも有効な使い道だ。(川本和佳英)